

龍源寺報

平成29年 孟蘭盆号

臨濟宗・妙心寺派	住職 松原信樹
佛母寺住職 松原覚樹	正福寺住職 松原行樹
TEL	3451-1853
FAX	3451-6094

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23 (郵便番号 108-0073)

Email: info@ryugenji.com URL: http://www.ryugenji.com

孟蘭盆會におもう

電波によつて流れる情報に慣れてしまつてい
 せいか、インターネットやテレビで知る情報は、
 その時々により信用できないことがある。また、
 これまでに伝承されてきた、さまざまな教えや慣
 習についても本当に自分自身で納得できない限り、
 自分の心を支える根拠にならない。自分の生き方は、
 自分自身の摸索によつて汲み取るよりほかにない。

自分の感受性くらい 自分で守れ ばかものよ

茨木のり子

『自分の感受性くらい』所収。

作者は、一九五〇年代初頭以来、率直かつ大胆
 に声をあげた詩人の一人であった。「ばかものよ」
 と叱られているのは、きつと、自分自身のことであ
 ろう。乾ききつた自分の心を、他人や時代のせ
 いにするなども読みとれる。物事を他人や時代
 環境のせいにしてはいけない。

昔から人々は、健康、美貌、財産、名誉などか
 ら幸福を見いだしている。しかし、歴史を垣間見
 ると、多くの人々が、これらのものを実際にはつ
 かみ取ることができなかった。それにもかかわら
 ず、多くの人々が立派に人生を生きえたのは、外

見のことなど考えず髪を振り乱しながら働き、改
 築をしなければいけない家なのに住めば都と心得
 ただひたすら、貧しく名もない境遇を受け入れ、
 そこに一縷の望みを見いだして、生き抜くべき厳
 しい宿命を辛抱強く耐えたからであらう。耐えて
 くれたからこそ、今を生きる者の杖となつている。
 龍源寺十四世の住職である泰道和尚の父である祖
 来和尚の弟の輝外文器和尚は、三十二歳の若さで
 明治三十八年八月九日に亡くなった。彼が入寺し
 た時の龍源寺には食物を食べる器もなく、貧しさ
 の中で亡くなったと文書は伝える。私には、貧し
 さの中で亡くなった彼の存在が心の杖となつてい
 る。皆さまのご先祖さまのことを思つていただき
 たい。ご苦労されたご先祖さまが、きつといらつ
 しゃると思う。お仏壇に花を供え、自分達が食べ
 るものと同じものを供え、お参りをしていただき
 たい。追善供養とは、亡くなった人が生前成し遂
 げることができなかつたことを遺された者がか
 わつて善事をすることであり、一周忌、三回忌な
 ど一見単調に思えるかもしれないが、この単調な
 連続に身を委ねること以最愛の方との死別という
 苦しみを少しずつですが癒やすことが出来る。こ
 れは、説明されないままに伝えられてきた仏教徒
 の貴重な経験の積み重ねからきたものなのである。

かんのんさまに

金三万円也 勝田明子殿

金一万円也 泊龍子殿

寄付

金一万円也 中澤正幸殿

日月庵坐禅堂寄付

金百万円也 松原良樹殿

墨蹟寄付 津久井喜美代殿

ウォーカー美樹子殿

ありがとうございました

*将来は、本堂の裏地を整理して、
大般若経を納める経蔵を建立する
計画をしております。

*駐車場はありません。

南北線をご利用ください。

ウラボン法要

一、七月十日（月曜日）午前十一時から

一、法話

一、齋座

・新盆の法要を行います。

・ご家族そろってお参りください。

龍源寺への交通の便（地下鉄）

- 都営三田線（目黒または三田、南北線は白金高輪駅下車。徒歩五分）
2番出口から地上に出ると案内看板に「龍源寺」名あり

龍源寺への交通の便（都バス）

- 田 87 渋谷駅—田町駅 魚ラン坂下下車
- 都 06 渋谷駅—新橋駅 古川橋下車
- 品 97 品川駅—新宿駅西口 魚ラン坂下・古川橋下車
- 反 96 五反田駅—品川駅—六本木ヒルズ（循環）
魚ラン坂下・古川橋下車
- 東 98 東京駅丸の内南口—目黒駅 魚ラン坂下下車

龍源寺の歴史について(八)

松原 泰道

当時の東京市当局は、市区改正計画と経済上や衛生上の理由から、市内にある寺院境内の共葬墓地を郊外に改葬するよう奨励していった。論告は、明治四十一年一月二十五日ですが、引き続き数回にわたって勸奨状が出されています。

この件について当寺では寺関係の法類と檀信徒総代会議を同年十一月十五日に開き、次の決議を行っています。

一、墓地の移転は早晩決行せざるべからずよりて龍源寺は市の論告に基き、明治四十二年を期して郡部に移転を実行すべき事、但龍源寺建物は移転せざる事

一、移転地は豊多摩郡下渋谷村東北寺境内墓地(現在渋谷区永住町)とす

一、費用、土地買収費金壹千三百円、但墓地百二十坪、一坪一〇円割、改葬費一千八百円、墓地約六百基

一、費用の出途及償却方法、費用は他借として改葬跡敷地の貸付地代を以て返済すべき事

一、多額の費用を要し候事故可成御縁故の方より応分の補助仰度事。但任意の場所への移転希望の御方は御随意自費を以て一般の改葬以前に移転せられたきこと

一、移転先墓地特にご希望の御方は実費(一坪拾円割)御支出被下度事

一、改葬地跡敷地は払下の上、龍源寺永代不動産として保存すること

右議決候也

明治四十一年一月十五日

龍源寺住職松原祖來、右寺前住職越溪宗逸、曹溪寺住職越溪宗実、重秀寺住職金谷宗葩、吸

江寺住職天野宗格

檀信徒総代。小岸仙之助。飯

田平作、丸岡東治

この決議に基き、檀信徒各氏の賛同を求めて調印を得、計劃通り翌四十二年六月四日から墓地改葬事業に着手しました。指定墓地の東北寺と任意改葬地の重秀、曹溪、祥雲の各寺へ移転改葬を終ったのは同年十一月十七日でありました。

その跡地の中で寺にとって利用価値の少い袋地と道路敷地とを合せた二百十九坪二合を法類檀信徒総代会議の議決と本山管長の副申書を得て所管官庁の許可を待って明治四十二年二月二十四日と翌年十一月十六日との両度にわたり松本徳次郎氏に売却、残地二百九十五坪余が寺有財産となりました。

(「寺報」第十四号・昭和四十一年九月一日号より)



孟蘭盆会を迎えます。新盆を迎える方は、七月十日午前十一時の法要にご参加いただけますと思います。白木のお位牌を柵に上げて、

近隣二十ヶ寺のご住職にお経を読んでいただきます。龍源寺でも一番盛大な行事になります。ご家族でお参り下さい。柵経に伺わせていただくお檀家さまには、ハガキでお知らせをさせていただきます。新たにご希望の方は、ご連絡いただけたらと思います。▼
総代の北村行夫先生のご尽力で、裏の借地の十数坪の土地がお寺に戻って参りました。皆さまから納めていただいたお布施や御寄付はこのような境内整備に充てさせていただいております。借地の問題は、戦前から始まり私で三代になります。辯護士の先生を介さないと解決できないトラブルも多いため、私の代で目途をつけたらと思っております。静謐な境内を作ることに今後も心がけて参りたいと思います。皆さまのご協力宜しくお願い申し上げます。▼

三十年ぶりに大きな楠の木を剪定し、庭が明るくなりました。不作ながらも梅の実を取り、梅酒と梅干しを漬けることができました。梅酒は、焼酎漬けとイタリアのお酒であるグラッパで漬けたもの。焼酎漬けは、娘の瑞樹が二十歳になったら皆んなで飲もうと思っております。その頃には、私自身六十六歳ですので、健康に気をつけなければなりません。梅の木は、亡くなった父が兄の浩明の供養のために四十七年前に植えたもの。悲しみで植えた木が、今では慈悲の味わいになっています。悲しむとは、慈悲の心のはじまりかもしれませぬ。▼『仏教タイムス』という新聞で、「今を生きる白隠禅」を一面コラムで連載しています。毎日が勉強です。母は、百歳を越える実母の介助と一歳を迎える孫の育児を手伝ってくれています。妻の亜矢は、先日銀行に入金に行った際、お年寄りが振り込め詐欺に逢いそうになったところを声かけをし、振り込め詐欺事件を防ぎました。皆様も本当に気をつけて下さい。娘の

瑞樹も六月二十日で一歳になります。健やかに育っています。▼弟二人もアメリカと戸塚で一寺の住職として精進しております。▼毎回申し上げますが、お檀家さままでお葬式をだされる場合、信頼のある葬儀社を紹介させていただきます。病院で臨終の際、まず一番はじめに龍源寺、深夜でしたら、「あおば葬祭」○三―五七二二―七六五一（東京都目黒区下目黒五―七―一）
<http://www.aoba-sousai.co.jp/> に、お電話を入れていただきたいと思っております。丁寧なお仕事で皆さまに大変喜ばれています。葬儀、家族葬、密葬など気軽にご相談下さい。生前のご相談も受け付けています。渋谷区広尾にある合同船は、龍源寺の規則を守っていただければ、どなたでも利用ができます。▼七月九日、十三時より、ちらし寿司のお野菜の刻みを致します。お手伝いいただける方、宜しく願い申し上げます。七月十日、孟蘭盆会でお会いできることを楽しみにしております。ご家族でお参りください。（信樹）